



2025年3月期 第2四半期(中間期)決算短信(日本基準)(連結)

2024年11月1日

上場会社名 持田製薬株式会社

上場取引所 東

コード番号 4534 URL <https://www.mochida.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 持田 直幸

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 宮本 憲一

TEL 03-3358-7211

半期報告書提出予定日 2024年11月11日

配当支払開始予定日

2024年12月2日

決算補足説明資料作成の有無 : 有

決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2024年4月1日～2024年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	51,096	3.3	3,793	4.0	4,079	0.6	2,825	0.5
2024年3月期中間期	49,476	7.0	3,952	25.1	4,053	25.5	2,838	27.6

(注) 包括利益 2025年3月期中間期 2,558百万円 (48.0%) 2024年3月期中間期 4,921百万円 (45.2%)

	1株当たり中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期中間期	79.71	
2024年3月期中間期	78.39	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期中間期	158,434	129,106	81.5
2024年3月期	158,800	127,967	80.6

(参考) 自己資本 2025年3月期中間期 129,106百万円 2024年3月期 127,967百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		40.00		40.00	80.00
2025年3月期		40.00			
2025年3月期(予想)				40.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の連結業績予想(2024年4月1日～2025年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	3.0	7,500	29.3	7,700	27.5	5,600	23.1	157.96

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.9'2.中間連結財務諸表及び主な注記(4)中間連結財務諸表に関する注記事項(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2025年3月期中間期	37,470,000 株	2024年3月期	37,470,000 株
-------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2025年3月期中間期	2,018,945 株	2024年3月期	2,018,491 株
-------------	-------------	----------	-------------

期中平均株式数(中間期)

2025年3月期中間期	35,451,233 株	2024年3月期中間期	36,210,994 株
-------------	--------------	-------------	--------------

第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想につきましては、本資料発表時点で入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

(決算補足説明資料の入手方法)

決算補足説明資料は、2024年11月7日(木)に当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
3. 補足情報	10
(1) [連結]設備投資、減価償却費、研究開発費	10
(2) 主要製品の売上高	11
(3) 医薬品等開発状況	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

医薬品業界は、医療費抑制策が継続的に推し進められるなか毎年薬価改定が実施されるなど、引き続き厳しい環境下にあります。

当社グループ(当社及び連結子会社、以下同じ)は、医療・健康ニーズに応え、グローバルにも存在価値を認められる特色ある生命・健康関連企業グループとして成長するために、研究・開発から製造・販売までのグループ総合力を結集し、持続的成長に向けて選択と集中を進め、更なる環境変化に対応すべく収益構造の再構築を進めております。当期を含む22-24中期経営計画期間中は「新薬を中心とした重点領域における収益の最大化」「将来の競争力に結びつく事業活動への投資」「イノベーション創出と生産性向上に向けた企業体制の強化」を課題として重点的に取り組んでおります。

当中間連結会計期間における医薬品関連事業は、重点領域の「循環器、産婦人科、精神科、消化器」にリソースを集中し、主力製品を中心とした情報提供活動を積極的に展開いたしました。また、ヘルスケア事業は、皮膚科医・産婦人科医や看護師等の高い支持を基盤としたマーケティングの推進に努め、市場開拓を図ってまいりました。

当中間連結会計期間の売上高は51,096百万円で前年同期比3.3%の増収となりました。

これを事業別に見ますと、医薬品関連事業は薬価改定の影響を受けたものの、売上高は47,555百万円で前期比2.7%の増収となりました。新薬の売上高は、潰瘍性大腸炎治療剤「リアルダ」、慢性便秘症治療剤「グーフイス」「モビコール」、痛風・高尿酸血症治療剤「ユリス」、及び肺動脈性肺高血圧症・間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤「トレプロスト」が伸長し、前年同期を上回りました。2023年6月に販売を開始した潰瘍性大腸炎治療剤「オンボー」、及び2023年9月に販売を開始した潰瘍性大腸炎治療剤「コレチメント」も寄与しました。長期収載品の売上高は前年同期を下回りました。後発品事業の売上高は前年同期を上回りました。

ヘルスケア事業の売上高は3,540百万円で前年同期比11.0%の増収となりました。抗真菌成分配合シャンプー・石鹸をはじめとする「コラージュフルフルシリーズ」、及び基礎化粧品「コラージュリペアシリーズ」の売上高が伸長しました。

次に当中間連結会計期間の利益面につきましては、薬価改定及び円安による原薬・製剤の輸入価格の上昇による売上原価率の上昇等により、営業利益は3,793百万円で前年同期比4.0%の減益となりました。経常利益は4,079百万円で前年同期比0.6%の増益、親会社株主に帰属する中間純利益は2,825百万円で前年同期比0.5%の減益となりました。

研究開発の状況につきましては、研究面では、オープンイノベーションの推進、及び外部リソースを活用した創薬により細胞・核酸・遺伝子などの新たなモダリティを取り込み、創薬パイプラインの充実を図っております。再生医療等製品の分野においては、間葉系幹細胞を用いたプロジェクトに優先的に取り組んでおり、ヒト歯髄幹細胞SHED、高純度間葉系幹細胞REC、臍帯由来細胞「HLC-001」による治療法の開発を進めております。核酸医薬については、高度な専門性を持つ人財や、創薬技術の獲得を積極的に進め、競争優位性のある創薬研究を推進しております。

臨床開発面では、ネクセラファーマジャパン株式会社(旧イドルシアファーマシューティカルズジャパン株式会社)と共同開発を行っていた不眠症治療薬「クービビック」(開発コード:ACT-541468)について、2024年9月に同社が製造販売承認を取得しました(2024年10月に事業スキームを変更し、販売に関する契約等を解消)。「トレプロスト吸入液」の間質性肺疾患に伴う肺高血圧症に対する効能・効果追加の製造販売承認を2024年9月に取得しました。「リアルダ」は小児適応の用法・用量追加の承認申請中です。「ユリス」の小児適応は、臨床第Ⅲ相段階にあります。また、中国において住友製薬(蘇州)と提携して開発を進めている高純度EPA製剤「MND-21」は承認申請中です。

なお、2024年8月にMeiji Seika ファルマ株式会社とASEAN地域及び台湾における「エパデール」の販売に関する契約を締結しました。また、2024年10月に米国ユナイテッド・セラピューティクス社と肺高血圧症治療剤「TYVASO DPI」の国内における販売権に関する契約を締結しました。今後、製造販売承認取得に必要な本剤の開発を行います。

次世代の柱の一つと位置付けるバイオマテリアル事業においては、アルギン酸を基盤とする各プロジェクトを推進しております。510(k)許可を取得した神経再生誘導材「ReFeel」は、米国における臨床データの収集を目的とした販売を開始しました。軟骨修復材「dMD-001」は製造販売承認申請中です。海綿体神経損傷治療材「dMD-002」は探索的治験段階、癒着防止材「dMD-003」は検証的治験段階にあります。

当中間連結会計期間の研究開発費は4,776百万円であります。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

当社グループの当中間連結会計期間末の総資産は、158,434百万円となり、前連結会計年度末比で365百万円減少いたしました。

資産の減少は、主に現金及び預金が増加しましたが、売掛金や有価証券が減少したためです。負債の減少は、主に未払法人税等が増加しましたが、支払手形及び買掛金や電子記録債務が減少したためです。純資産の増加は、配当金の支払いによる利益剰余金の減少がありましたが、親会社株主に帰属する中間純利益による利益剰余金の増加があったためです。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、40,991百万円となり、前連結会計年度末比で16,700百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、主に仕入債務の減少がありましたが、売上債権の減少や税金等調整前中間純利益による収入により8,519百万円の収入(前年同期は5,930百万円の支出)となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形及び無形固定資産の取得による支出がありましたが、定期預金の払戻による収入や有価証券の売却による収入により9,658百万円の収入(前年同期は1,790百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、主に配当金の支払により1,432百万円の支出(前年同期は4,399百万円の支出)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間はほぼ計画に沿った業績で推移しているため、2024年5月13日に公表いたしました連結業績予想から修正は行っておりません。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	33,290	40,692
売掛金	34,838	29,765
有価証券	13,499	11,998
商品及び製品	18,535	18,061
仕掛品	1,428	2,215
原材料及び貯蔵品	10,315	10,453
その他	4,753	3,575
流動資産合計	116,662	116,761
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,823	6,670
機械装置及び運搬具（純額）	1,667	1,779
土地	5,993	5,993
その他（純額）	1,390	1,558
有形固定資産合計	15,874	16,002
無形固定資産	721	745
投資その他の資産		
投資有価証券	16,116	15,717
繰延税金資産	2,372	2,520
その他	7,052	6,685
投資その他の資産合計	25,541	24,924
固定資産合計	42,138	41,672
資産合計	158,800	158,434

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	10,975	8,901
電子記録債務	1,207	938
未払法人税等	593	1,409
賞与引当金	2,140	2,075
その他の引当金	163	150
その他	10,992	11,100
流動負債合計	26,073	24,576
固定負債		
退職給付に係る負債	3,908	3,907
その他	851	844
固定負債合計	4,759	4,751
負債合計	30,833	29,328
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,229	7,229
資本剰余金	1,871	1,871
利益剰余金	117,022	118,429
自己株式	△7,021	△7,022
株主資本合計	119,102	120,508
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,585	8,355
退職給付に係る調整累計額	279	242
その他の包括利益累計額合計	8,864	8,598
純資産合計	127,967	129,106
負債純資産合計	158,800	158,434

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

(中間連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日)
売上高	49,476	51,096
売上原価	23,961	25,811
売上総利益	25,515	25,285
販売費及び一般管理費	21,563	21,492
営業利益	3,952	3,793
営業外収益		
受取利息	1	4
受取配当金	181	204
為替差益	—	92
その他	70	65
営業外収益合計	253	365
営業外費用		
支払利息	0	1
持分法による投資損失	115	67
支払手数料	8	7
その他	27	2
営業外費用合計	152	79
経常利益	4,053	4,079
特別利益		
固定資産売却益	—	2
受取和解金	11	—
投資有価証券売却益	15	—
特別利益合計	27	2
特別損失		
固定資産除売却損	31	13
特別損失合計	31	13
税金等調整前中間純利益	4,049	4,068
法人税等	1,210	1,242
中間純利益	2,838	2,825
親会社株主に帰属する中間純利益	2,838	2,825

(中間連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日)
中間純利益	2,838	2,825
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,105	△229
退職給付に係る調整額	△22	△36
その他の包括利益合計	2,082	△266
中間包括利益	4,921	2,558
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	4,921	2,558

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月 1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月 1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	4,049	4,068
減価償却費	1,330	1,418
投資有価証券売却損益(△は益)	△15	—
固定資産除売却損益(△は益)	31	11
持分法による投資損益(△は益)	115	67
賞与引当金の増減額(△は減少)	△246	△64
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	△28	△53
受取利息及び受取配当金	△182	△208
支払利息及び支払手数料	9	8
売上債権の増減額(△は増加)	△3,461	5,072
棚卸資産の増減額(△は増加)	△3,496	△450
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△1,471	465
仕入債務の増減額(△は減少)	340	△2,342
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△1,972	861
その他	△518	△164
小計	△5,517	8,691
利息及び配当金の受取額	182	207
利息及び手数料の支払額	△7	△8
法人税等の支払額	△587	△370
営業活動によるキャッシュ・フロー	△5,930	8,519
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△6,900	△2,700
定期預金の払戻による収入	7,100	12,000
有価証券の取得による支出	△4,500	△3,000
有価証券の売却による収入	4,500	4,500
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,721	△1,147
有形固定資産の売却による収入	—	1
投資有価証券の取得による支出	△300	—
投資有価証券の売却による収入	15	—
その他	14	4
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,790	9,658
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△1,462	△1,417
自己株式の取得による支出	△2,930	△1
自己株式の売却による収入	0	—
その他	△6	△13
財務活動によるキャッシュ・フロー	△4,399	△1,432
現金及び現金同等物に係る換算差額	67	△45
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△12,053	16,700
現金及び現金同等物の期首残高	38,010	24,290
現金及び現金同等物の中間期末残高	25,957	40,991

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

3. 補足情報

(1) [連結] 設備投資、減価償却費、研究開発費

1. 設備投資

	2024年3月期	2025年3月期
中間期	1,187 百万円	858 百万円
通期	2,315 百万円	(予) 1,800 百万円

2. 減価償却費

	2024年3月期	2025年3月期
中間期	1,330 百万円 (うち、有形固定資産 690 百万円)	1,418 百万円 (うち、有形固定資産 716 百万円)
通期	2,808 百万円 (うち、有形固定資産 1,461 百万円)	(予) 2,900 百万円 (うち、有形固定資産 1,500 百万円)

3. 研究開発費

	2024年3月期	2025年3月期
中間期	4,855 百万円 (売上高比 9.8%)	4,776 百万円 (売上高比 9.3%)
通期	12,554 百万円 (売上高比 12.2%)	(予) 13,200 百万円 (売上高比 12.5%)

(2) 主要製品の売上高

主要製品の売上高

(2025年3月期 中間実績)

(単位：億円)

製 品 名	前 期 2024年3月期		当 期 2025年3月期		対前年 同期 増減率
	中間 実績	年間 実績	中間 実績	年間 見込	
潰瘍性大腸炎治療剤 リアルダ	71	145	74	146	+ 4%
慢性便秘症治療剤 グーフィス	37	77	41	90	+ 8%
高脂血症・閉塞性動脈硬化症治療剤 エパデール	38	74	29	65	△ 25%
慢性便秘症治療剤 モビコール	28	59	32	60	+ 11%
痛風・高尿酸血症治療剤 ユリス	15	33	21	54	+ 35%
抗うつ剤 レクサプロ	26	52	17	37	△ 34%
肺動脈性肺高血圧症・ 間質性肺疾患に伴う肺高血圧症治療剤 トレプロスト	10	23	19	28	+ 98%
慢性疼痛・抜歯後疼痛治療剤 トラムセット	12	22	9	20	△ 25%
持続性Ca拮抗降圧剤 アテレック	12	23	8	18	△ 26%
潰瘍性大腸炎治療剤 コレチメント	0	2	2	14	+ 253%
血液凝固阻止剤 ヘパリンNa	6	13	6	12	+ 3%
子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤 ディナゲスト	5	11	4	7	△ 21%
後発品	150	326	151	285	+ 1%
(内、子宮内膜症・子宮腺筋症・月経困難症治療剤 ジェノゲスト)	43	92	49	92	+ 13%
スキンケア製品	31	64	35	70	+ 11%

- ・アテレックは、アテディオを含む
- ・コレチメントは、2023年9月より販売を開始

(3) 医薬品等開発状況

医薬品等開発状況

【医薬品】

開発コード 〈一般名〉 [製品名]	開発段階	予定適応症	剤型	備考
* ACT-541468 〈ダリドレキサント塩酸塩〉 [クービビック]	承認取得	不眠症	経口剤	ネクスセラファーマージャパン(株)(旧イドルシアファーマシューティカルズジャパン(株))と共同開発
* MD-711 〈トレプロスチニル〉 [トレプロスト吸入液]	承認取得	間質性肺疾患に伴う 肺高血圧症 (効能追加)	吸入剤	ユナイテッド・セラピューティクス社から導入 自社開発
MD-0901 〈メサラジン〉 [リアルダ]	申請中	潰瘍性大腸炎 (小児適応)	経口剤	武田ファーマシューティカルズU.S.A.社から導入 自社開発
FYU-981 〈ドチヌラド〉 [ユリス]	臨床第Ⅲ相	痛風・高尿酸血症 (小児適応)	経口剤	(株)富士薬品と共同開発
MND-21 〈イコサペント酸エチル〉 [エパデール]	申請中	高トリグリセリド血症	経口剤	開発地域:中国 住友製薬(蘇州)と提携・開発

【医療機器】

開発コード又は製品名	開発段階	予定する使用目的 又は効果	備考
dMD-001	申請中	関節軟骨損傷	アルギン酸ゲル 自社開発
dMD-002	探索的治験	海綿体神経損傷	アルギン酸シート 自社開発
dMD-003	検証的治験	術後の癒着	アルギン酸シート 自社開発

医療機器の臨床試験に関する開発段階を探索的治験と検証的治験に区分しています

* 2025年3月期第1四半期決算短信(2024年8月2日公表)からの変更点